



## ザ・グレーター・マンチェスター・クラブ活動報告

平沢洋治

2011年12月26日

今年は地震、津波、放射能汚染、台風による水害など気持ちの重い年となりました。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

今年は年次大会の開催中止などマンチェスタークラブの活動を自粛してきましたが、来年は元の活動に戻そうと思います。（交流は大事であるとつくづく感じていますから）

年の瀬も押し迫りましたが、今年最後の季報を送ります。

### [入退会]

会員は12月26日現在、272名です。8月度より入退会された方はいません。

### [大震災への義援金]

あしなが育英会に8月に10万円、12月に4万5千円、計14万5千円を寄附致しました。被災に遭ったお子さんたちの勉学に少しでもお役に立てることを願っています。

### [ネクタイ・スカーフ プロジェクト]

8月より、3枚のネクタイの購入がありました。現在残っているネクタイ・スカーフは下記の通りです。

ネクタイ（紺）117本、（赤）6本　　スカーフ　　4枚

ネクタイの在庫数が多いこと、販売が好ましくないことから、幹事間で検討し、ネクタイの在庫を減らすため、クラブの規約に入会の際、男性会員に対しては**入会金としてネクタイの購入（¥4500/本）を義務付けること**としました。また会員でクラブのネクタイをまだ未購入の方は、ぜひ購入にご協力下さい。



### [各地区での活動]

九州、関西、東京地区で8月度より活動はありませんでした。

### [会員の広場]

ソプラノ歌手のシャルロッテ・ドゥ・ロスチャイルドさんの日本東北がんばれチャリティコンサート（8

月26日の富士市チャリティコンサートを皮切りに日本全国でのコンサートで最終日が東京でのコンサート)が9月14日に学習院大学で開催されました。マンチェスター市在住の柴原さん(ペンネームは北広次郎)のご厚意で、マンチェスタークラブ会員の方に無料招待があり、参加された米澤さんから下記のレポートをいただきました。マンチェスタークラブの存在の意味について貴重なご意見ありがとうございました。

### 「ロスチャイルドさんの東北福島支援チャリティーコンサート」

米澤敏男

9月14日、学習院大学100周年記念会館でシャルロッテ・ドウ・ロスチャイルドさんの東北福島支援チャリティーコンサートが開催された。合計8回のチャリティーコンサートの最後を飾るものである。マンチェスター在住の柴原さん(ペンネーム北広次、通称ミスターようろっぽ)の御厚意でマンチェスタークラブのメンバーは無料で招待された。チャリティーコンサートに無料で参加していくは仕方ないが、御厚意に甘えて東北福島支援募金のみで参加させていただいた。私を含め4~5人のクラブメンバーが参加されたと思う。

ロスチャイルドさんは大富豪出身のソプラノ歌手として、また、日本の歌曲を歌いこなして、CDを出した外国人ソプラノとして、著名との事。お見かけした所、ソプラノ歌手らしい堂々とした体躯の中年美人であった。

当日のプログラムを下に示すが、ソプラノ歌手としての実力は相当なものと思われた。学習院大学100周年記念館の壁から反射する高音と御自身から伝わってくる声とがよく響いて美しかった。日本の若きソプラノ歌手達の細々とした声のとても及ばない力を持っていると思った。

(1) すみれ (モーツアルト)	(8) 夏の思い出 (中田喜直)
(2) Les Roses d'Ispahan (フォーレ)	(9) 宵待ち草 (多忠亮)
(3) 野ばら (シューベルト)	(10) からたちの花 (山田耕作)
(4) Where Lilac blow (M.D.ロスチャイルド)	(11) 松島音頭 (山田耕作)
(5) 恋はどんなものかしら (モーツアルト)	(12) 赤とんぼ (山田耕作)
(6) サマータイム (ガーシュウィン)	(13) あわて床屋 (山田耕作)
(7) Elizabeth and the pearl (田中瑞穂)	(14) Villa の歌 (レハール)

プログラム7番目の歌は田中瑞穂さんという方の作曲であるが、作詞は柴原徳光さん、こと北広次さんとか。このコンサートにマンチェスタークラブのメンバーを招待してくれた御当人である。これが柴原さんの作詞という解説がなければ、プログラムの中で自然に流れていく美しい曲である。ところが、柴原さんの作詞と聞くと「え!ほんと?」と思ってしまった。福田先生(当時、鐘ヶ渕化学、現神戸大学長)、亡くなった川上前会長や私などがマンチェスターに留学した1982年~84年頃、シティーホール真向かいの小路に「KEIKO JAPAN」という小さな店が開かれていた。マンチェスター在住の留学生やビジネスマン相手の日本食、日本雑貨、英國衣料等を扱う店であった。

英國やマンチェスターの事を色々と教えていただいた。この店の主が柴原さんである。商社の駐在員をドロップアウトして商売を始めた所であった。見た所、四角い顔をした背の低いフツーのオジサン。今でいうイケメンの真反対（どう言うのかしら）。ところが、奥様（KEIKOさん）はスラリとした長身の美人。「何でこうなったの？」というのが私の第一印象であった（柴原さん失礼）。私もここで英國王室御用達という触込みのカシミヤコートをあつらえた。厚手のツヤのいいカシミヤで10年程使用した。しっかりとした英國生地でいい仕立てだったと思う。ところが、1つ難があった。ポケットの位置がやけに下の方に有り使い物にならなかつた。背の低い私のコートとしては、もっと上にポケットを付けるべきであった。柴原さんが寸法を取つてゐる時、一瞬「大丈夫かな」と思ったのが当たつてゐた。しかし、「まあいいか」と思つて長年愛用した。

1966年商社マンとしてマンチェスターに赴任した柴原さん。日本製織物機械を売るのが仕事だったとか。日本製の機械、電化製品、自動車などは、今でこそ高品質の評価を世界で得ているが、当時は、欧米をコピーした二流品、三流品としての評価しかなかつたと言う（北広次著「ミスターようろっぱ」より）。売り込むのはいいが、トラブルが起きては叱られまくる。ところが、叱られながら、相手と仲良くなる。やがて友人となる。憎めない男というのが柴原さんようである。ここらあたりの事が「ミスターようろっぱ」に書かれていた。

Wikipediaによればロスチャイルド家はユダヤ系ドイツ人の一族で18世紀からヨーロッパ各地で銀行ビジネスを展開した大富豪である。ドイツ語で読むとロートシルト、赤い盾という意味である。バチカンに資金援助をして取り入つたり、スエズ運河買収資金を提供したり、イスラエル建国を支援したり、等々、世界の政治との係りも深い。わが国とも明治以来、関係が深く、日露戦争を戦うための日本国債の引き受けをユダヤ系米国企業に仲介したり、新橋～横浜間の鉄道建設国債を購入したりと、わが国の近代化をビジネスの面から支援した。

ロスチャイルドさんのチャリティーコンサートでは、柴原さんは「名誉副運営委員長 英国特別顧問」という肩書であった。主催した「かすや事務所」（自民党、粕谷元代議士の系列）とロスチャイルド家をつないだのが、どうも柴原さんらしい。ここで又「なんで？」と思う。

柴原さんのコンサートの案内メールには、クラシックカーの趣味が縁で貴族のMONTAGU家と付き合いがあり、MONAGU家の紹介がきっかけでロスチャイルド家ソプラノ歌手のお父上と知り合いになり、大変可愛がつてもらつたと書かれている。詳しくはわからないが、「憎めない柴原さん」が可愛がられ、その縁でチャリティーコンサートを取り持つたものと思われる。手の届かないポケットの付いたコートの柴原さん、売り込んだ機械のクレームが縁で友人を作る柴原さん、いずれも「憎めない柴原さん」である。ロスチャイルド家とのつながりも、「憎めない柴原さん」の面目躍如といった

ところではないか。

英国人は戦争好きな人達と思うが、困っている人の支援にも力を発揮する。東北大震災に対して様々な英国からの支援が報道された。ロスチャイルドさんのチャリティーコンサートもその一つである。マンチェスタークラブは、マンチェスターで学んだり、ビジネスをした人の集まりである。すなわち、マンチェスターにお世話になった人の集まりである。今回、マンチェスターの柴原さんの取り持つ縁で、ロスチャイルド家のチャリティーコンサートという支援をいただき、また、お世話になった。「忘れないようにしなければ」と思う。



ロスチャイルド家の紋章



ロスチャイルド家の別荘の1つ

Waddesdon Manor

#### [編集後記]

- 1) 震災の影響を大なり小なり被られた方も多いのではないでしょうか。いつまでも後ろを振り返っていても仕方ありませんから、前を向いて歩むことにしましょう。
- 2) 来年度のクラブの年次大会は 6 月頃、開催の予定です。多くの皆さんと笑顔でお会いできることを今から楽しみしております。
- 3) 来年はどなたにとっても良い年となりますよう、お祈りしています。